

ほかほかタイムズ

第5回目の「ほかほかタイム」は、岡井健様をお招きして、お話を伺いました。岡井様は、仙台と日光の両方で“まち”をよりよくするための仕事をしていらっしゃる方です。

私は、日光生まれですが、大学が東北だったこともあり、仙台と日光の両方でまちづくりの仕事をしています。どんな仕事をしているかというと、「まち」を“より”良くするための仕事です。「良い」まちとは、元気なまち、活気のあるまち、安全なまち、安心して暮らせるまち…などいろいろあります。まちに住んだり、関わったりする人にとって良いまちにしていきたいと思っています。今、日本は、これまで経験したことのない時代に突入しています。若い人の数が減っていて、お年寄りの数は増えています。その中で、将来どういうまちにしたいか、どうやったら課題を解決できるかということを案内したり先導したりしていく役割を仕事としています。また、話合いの進行をして、たくさんの意見を整理したり、調整したりし、まとめることもしています。「まちづくり」の方法はいろいろありますが、私は「歴史を大切にしたいまちづくり」「災害からの『復興』」の主に二つをテーマに仕事をしています。具体的には、「歴史を大切にしたいまちづくり」というテーマでは、「日光ぶらり」というまちあるきガイドツアーをやっています。まちを知ってもらい、参加してくれた方にまちの楽しみ方を伝えることをしています。例えば、新しくできた歩道にあるサインを説明したり、まちの中を流れる水が、どこから何のために流れているのかを説明したり、お茶菓子を食べながら、それがどのようにつくられるのか、お店の人の話を聞いたりします。また、地域の大先輩から話を聞いて勉強したり、昔の地図や写真と今の実際の場所を見比べたりして、いろいろ勉強をしています。2つめのテーマの「災害からの『復興』」では、「復興まちづくり」のサポートを行っています。安全・安心のまちづくり、まちをつくり直す…そういうイメージです。どこにでも災害の危険はひそんでいます。7年前に津波で大きな被害のあった東日本大震災という災害がありましたが、津波が来なくても、大きな台風、竜巻、水害など、突然にやってきます。まちが一瞬で無くなってしまうこともあります。石巻の大川小学校という所をたずねましたが、この小学校は津波の被害にあって、多くの児童や先生が亡くなってしまいました。コンクリートの校舎の2階の廊下がねじれて倒れていたり、鉄筋が出てしまっていたりしています。気仙沼の石碑には、「地震があったら津波の用心」という言葉が刻まれています。今から7、80年前に津波があったとき、未来の人に、津波で命を失わないように残されたものです。でも、忘れられていました。…日本は、災害とつき合っていかなければならない国です。まちが一瞬で無くなってしまうこともあります。災害は予測できることもあります。“まち”を知っていれば、大きな被害にならない場合もあります。命が助かるかもしれません。そして、まちの人たちと協力ができれば、何かあっても助け合えます。まず、大切なのは“まち”を知っていることです。ポイントは、鳥の目、虫の目です。鳥の目とは、鳥のようにまちを上から全体的に見ることです。虫の目とは、自分の身近なものなどをじっくり見たり、同じ場所を時間の経過ごとに見たりすることです。歩きながら観察します。みなさんにも、ぜひ自分の“まち”を知ってほしいと思います。気になったものは、観察しましょう。調べましょう。歴史や地形や地名や建物、人など、「なんだろう?」「おもしろい!」というワクワクをまずは大切にしてください。“まち”に出なくても、遊べるし、楽しめるし、暮らせるかもしれません。でも、みなさん、ぜひ、まちに出かけてみてください。自分たちの“まち”のよさがきっと見つかりますよ。



次回ほかほかタイム

11月7日(水) 1:05~

講師：くりやま GO 企画

青山 裕之様

※体育館玄関からお入りください。
スリッパを御持参ください。

岡井様より、まちあるきガイドツアー「日光ぶらり」や復興まちづくりの様子、東日本大震災などの写真をスライドを使って、たくさん紹介していただきました。

子どもたちの感想は、裏面に載せてありますので、御覧ください。

キ リ ト リ

保護者の皆様から、御意見・御感想がありましたら、お寄せください。

担当 根本

氏名 () 児童名 (年 組)

児童の感想

前回のほかほかタイムの保護者の方からの感想

ありがとうございました。

挫折した一郎君が、一步一步、歩みを進める様子が目に浮かぶようです。長い人生、一つ一つの積み重ねがあれば、自分の弱さも克服できるのだろうか、と勇気づけられました。

大久保先生の話聞いたその日に、息子からがんばって山に登った話を聞いたけれど、せっかくのスライドがよく見えなくて残念だったと聞きました。子どもたちは、いろいろな経験をした方々から、お話を聞くチャンスをたくさんつくっていただき、保護者としても感謝しております。一つのことをやり遂げる気持ち、力。いくつ(年齢)になってもチャレンジする気持ち、とても大切だと思います。小さなことでよくよしているのなら、もっと大きな自然と向き合ってみるのもよいものなんだなと思いました。私もいつか富士山へ登ってみたいと思っています。夢で終わらせないようにしなければ…。ガンバリマス。

私も富士登山を体験した一人です。きっかけは、アウトドアショップの登山ツアーでした。今でも感謝の気持ちでいっぱいです。それは、私にとって『大きな体験』となったからです。いつの日か家族で富士登山できる日を楽しみにしています。子どもにとっても『大きな体験』となるといいなと思います。大久保みどり先生のお話、何度も読み返し、懐かしい気持ちでいっぱいになりました。ありがとうございました。